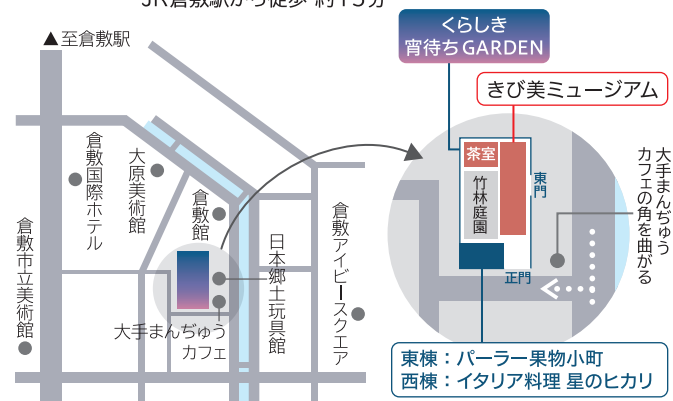




利用案内

開館時間	10:00～18:00 (入館は17:30まで)
休館日	月、火曜日(祝日の場合は振替) ※年末年始、展示替などの臨時休館日についてはその都度Webサイトでお知らせします。
入館料	一般 700円 中高生 500円 小学生 300円 ※10名以上の団体は2割引 ※車椅子の方が入館される際の介助者は無料

アクセス 倉敷ICから車で 約15分
早島ICから車で 約15分
JR倉敷駅から徒歩 約15分



くらしき 宵待ち GARDEN

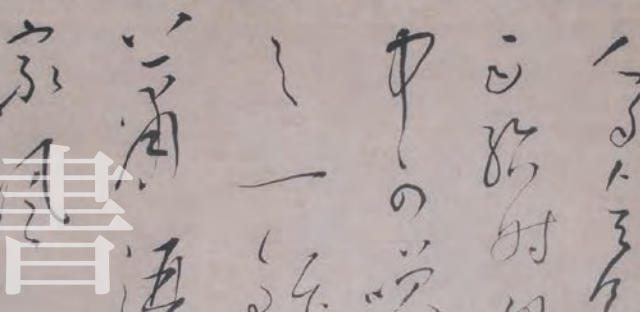
くらしき宵待ちGARDENは〈アートと食文化の融合〉をコンセプトとして2015年にオープンしました。フルーツパーラー、イタリアンレストランのほか、夜はライトアップされる竹林散策庭園と、コンサートなどを楽しめる野外催事場を有する複合文化施設です。2021年4月からはきび美ミュージアムが新たに加わり、郷土ゆかりの幅広いジャンルの文化財を展覧します。



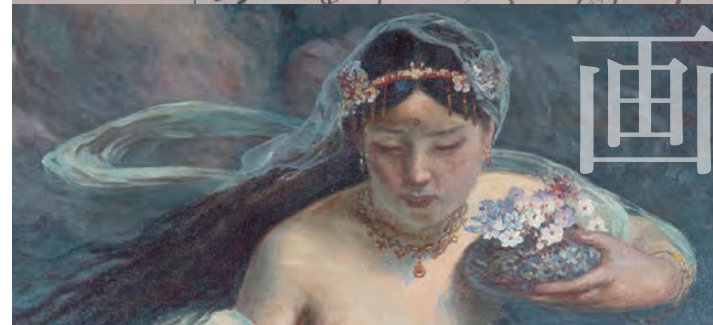
刀



陶



画



吉備と出会う 吉備に恋する

古代より悠久の歴史が流れる「吉備国」。
その郷土ゆかりの先人たちが遺したさまざまな文化財は、優れた技や知恵、美意識や世界観を今に伝えます。時空を超えたその出会いは恋にも似て、心ふるえるととても贅沢な体験となるでしょう。気持ちや心が塞がれるような時にも、吉備の文化の風に吹かれ、心潤す憩いのひとときをお過ごしください。

古代吉備から未来へつなぐ

刀陶(とうとう)の間 —吉備の真髄と出会う—



古代から吉備は刀と陶が面白い

均整のとれたフォルムと薄さ、その抜群の技術力に驚かされる酒津出土の弥生土器。古代吉備の先進性と国際性の秘密に一石を投じる円筒埴輪。健全に保存された希少な上古刀。須恵器から発展し、室町時代には実用品として日本一のシェアを誇り、さらに桃山時代には茶陶として美の頂点を極めた備前焼。江戸時代になると低迷した備前焼を再興するために藩主導で作られた細工物。加えて、古来より評価の高い玉鋼を鍛えた備前刀や備中刀を展示します。



上段 左：《備前 雉香炉》中央：《弥生大壺》右：《備前 玉垂れ大壺》
下段 左：《太刀 銘「宗貞」》(県指定重要文化財) 右：《備前 火禪師首德利》



シンボルマークについて

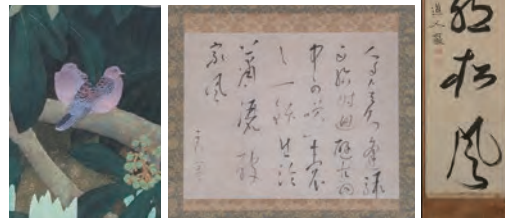
このマークは、シェルディスク由来と思われる円筒埴輪の透かし文をアレンジしたものです。古代より吉備繁栄の根幹である製鉄と窯業に不可欠な「火」に見立てました。当コレクションを築き上げた倉敷の実業家・山田眞常の情熱も表現しています。

翰墨(かんぼく)の間 —詩思筆才—



江戸時代は書が面白い

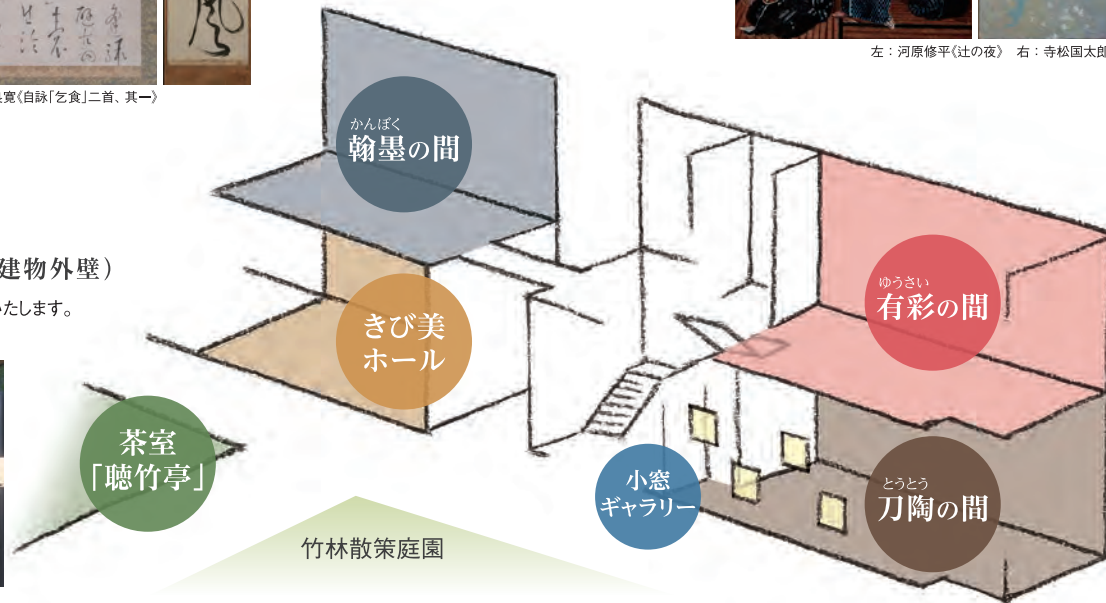
連島宝島寺の住持であった寂庵^{じやくあん}や玉島円通寺^{りょうつう}で修業を重ねた良寛の精神性の高い墨蹟。福山廉塾の儒者菅茶山とその門人頼山陽、備前中山藩の儒者山田方谷らの才知あふれる江戸期の書作のほか、浦上春琴や木村丈夫^{きむらじゆうふ}による岡山ゆかりの日本画を展示します。



左：木村丈夫《永日午後》(部分) 中央：良寛《自詠「乞食」二首、其一》
右：寂庵《湯鼎聴松風》

■小窓ギャラリー(建物外壁)

吉備文化へ誘う小作品を展示いたします。どなたでもご覧いただけます。



有彩(ゆうさい)の間 —百花生ず 吉備彩描—



近現代は絵が面白い

洋画黎明期の京都で、関西油彩画壇を牽引した寺松国太郎、京都で制作し地元ではあまり知られない花鳥風月の名手・木村丈夫、東京画壇を離れ、倉敷に戻り独自の画境を追求した鬼才・河原修平など、郷土ゆかりの画家のコレクションを眺めながら、ゆっくりとおくつろぎください。



左：河原修平《辻の夜》 右：寺松国太郎《乙女散華之図》

ちようちくてい
■茶室「聴竹亭」 琵琶床を備えた松風楼スタイルの八畳の茶室と控えの間。心静かに竹のそよ音、釜の沸く音を聴き、集う人々との語らいをこころゆくまで。



■きび美ホール

展示、講演、ワークショップなど多目的に利用できる空間です。



※茶室「聴竹亭」と「きび美ホール」は皆様の文化的な活動にもお使い頂けます。詳しくはお問い合わせください。

■パーラー 果物小町

吉備の「美」に出会ったあとは、フレッシュな吉備の「果物」をご賞味ください。

